音の無い都会

音の無い都会の中を泳ぐのです
人々の笑いさざめく
人々の嘆き悲しむ
音の無い都会の中を泳ぐのです

地下鉄の駅へと降りてゆくのです
振動が伝わってきます
次々と電車が来ては
またトンネルへと吸い込まれてゆく

僕の足音は馴染んで
溶け込んでいるだろうか
無数の足が行き交う
人々の汚れを身に着けたこの床に

何と形容しよう
・、・、・、・、・———
爪先が浮いて
着地して

音の無い都会の中を泳ぐのです
i-pod を胸にしのばせた人々
携帯電話からイヤホンで聴く人々
その中を泳ぐのです

僕の目に映る光景は
残る４感によって支えられ
都会の混乱を和らげ
鄙びた感じを帯びてくる

僕は中でも触覚を愛します
運動するものも
静止しているものも
その温度も

音の無い都会の中を泳ぐのです
行く当てのないささくれ立った心が

遠ざかってゆく
すべるように遠ざかってゆく

音の無い都会の中を泳ぐのです
自らとのみ対峙する恐怖
それに優しく包まれて
音の無い都会の中を泳ぐのです

(2006.12.7)